

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風		
所在地	熊本市東区山ノ内3-9-27		
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果市町村受理日	令和4年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の皆様が今日まで歩んで来られた人生や関わった人達との繋がりを大切にしています。ご家族様や医療機関と連携・協力しながら、ご入居者様の安心安全を第一に、楽しく毎日を過ごして頂ける様、職員一同努力しております。  
地域との連携としましては、校区内の事業所間で包括を中心に連絡会を立ち上げ、定期的な会議を行い情報共有や行事の計画等を行っております。  
また、地域行事への参加を行い、利用者様、他事業所様との繋がりを深めるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスや認知デイが併設され、笑顔で生き生きと過ごせるホームとして施設全体で連携を図り、最高齢101歳という入居者の生活に職員の持つケア姿勢が表れている。また、協力医療機関や訪問看護、家族とホーム側がチームとして入居者の最終に寄り添い、健康管理の徹底や家族への情報の開示(運営推進会議録やそよ風便り等)により家族からも信頼を得ている。入居者同士の会話される姿に仲睦まじさが表れ、塗り絵の大作に日々のアクティビティの成果を見ることができる。職員の定着を課題として、資格取得のサポートやリモートでの研修等職員育成に“育てる”を目標にまい進されている。地域にある施設として認知症ケア推進とともに、災害時の一時避難場所としての地域への寄与が大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を職員が把握し、心に留める事が出来る様にする為、目に入り易い位置に提示し共有化している。	開設時からの理念を継続し、掲示による意識統一を図っている。職員が役割を持ち、同じくしてケアに取り組めることや、スキルアップに努めるとして人材育成『育てる』を目標として掲げ、進捗状況を精査する体制としている。地域の中にある施設として、近隣住民が相談出来る場としての役目を果たす等地域密着型としての意義を明確にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加を行い地域との触れ合う機会を設けられる様工夫している。地域の事業所の会議などにも参加し地域行事の計画などを行っている。	自治会に加入し、地域の掃除(公園等)へ参加しながら住民との交流や、地域密着型会議『糸でんわ』に参加している。例年であれば地域サロン等へ関わりもあるがコロナ禍で外に出ることに制約もあり、地域住民との交流も困難な状況にある。	コロナ禍により地域との関係は希薄になるつつなるが、出来ることでの関わりがある。コロナ感染症の状況次第では、地域へ出向くことやボランティアの受入れの再開など検討頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防について意見交換を行っている。また、情報の発信や話題の提供等を実施していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議は開催できなかったが委員の皆様、ご家族の皆様から貴重なご意見、ご提案を頂き職員間で共有している。また、利用者様状況、事故報告等を報告し意見を頂いている。	運営推進会議は一堂に会した会議は難しく書面審議として、入居者の状況やひやりはと・事故報告、行事や職員異動や新規入職者などを書面にて配布している。特に各委員にアンケートを同封し、意見や提案等を聞き取りしている。この中での意見等をサービスに具体的に反映させる等アンケートを次のステップとする意欲的は姿勢でこの会議を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村への事故や人員配置についての相談や、消防署への勉強会用資料等の相談を行い、適正なサービス提供の為に指導を頂いている。	市には不明な点等は質問票での提出とし、事故発生時には適切なアドバイスを得ている。また、避難訓練に対する資料を相談したり、介護保険更新時の代行や、地域包括支援センターとのリモートでの意見交換等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを基に、実施が必要と思われるケースが発生した時には、出来る限り拘束の必要ない計画を福祉用具業者と相談したりしながら、代替え案を採用する様努めている。	施設全体での身体拘束適正化委員会や毎月の全体会議で不適切なケアが無いかなど聞き取りし、全員で情報を共有している。また、勉強会を行い、職員の意見をまとめ次につながるとしている。職員の言葉使いに(なれなれしい言葉等)お互いが注意喚起している。居室で過される入居者や、夜間帯の対応として(転倒防止)、人感センサーを家族の同意のもと使用し、車椅子も安易に使用しないこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の項目に盛り込まれており、職員が再確認する機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方と関わりをもっておられる司法書士の方とのやり取りの中で、制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な説明を個別に時間を設けて行うのは勿論、ご本人様やご家族様の要望やご意見を聞くことで、その後のケアにもつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には気軽にご要望やご意見を頂ける様な雰囲気作りに努めている。また、ご意見箱の設置、職員用に苦情相談ノートを設置し、情報の共有化に努めている。運営推進会議の議事録送付の際、アンケートを同封している。	家族には施設訪問時の聞き取りや、運営推進会議の資料送付時にアンケートを同封し意見等を収集している。家族からの苦情らしき案件として問い合わせも申し送りノートを介して情報を共有している。ホーム側から物品の購入等事前に連絡する等家族と連携を図り、訪問へのルール作りにも家族の意向を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議、全体会議の中で意見交換の場を設けている。	コロナ禍の中で職員が一堂に行くことが難しい現状に、申し送りの徹底と日頃の職員の意見や提案を職員の意見などを集約した開催する毎月の部署会議により、各部署から現状や入居者の状況及び法人の運営体制を共有している。職員の意見や提案事項である勤務時間帯や治してほしい事(物品等)等で少しずつ改善するとして、職員個別に聞き取りした案件はホームの管理者より施設長に上申する体制としている。勤務表作成で月2回の希望休や常勤でも時短勤務等働きやすい環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長との面談や職場環境を整える為の設備点検や補修を行っている。また、日々の会話の中から管理者は職員の気持ちをくみ取れる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修、社内研修を参加を指名して参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議の出席を積極的に行い、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス実施前に必ずご本人やご家族との面談(実態調査)を行い、細かい要望や特性の把握に努め、介護計画に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施前にご家族様の困っている事や不安に思っている事を傾聴し、施設として協力できる事を誇張せず伝える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、認知症型共同生活介護についてご説明させて頂き、ご本人、ご家族の思いも大事にししながら、他のサービス利用が望ましいと思われる場合はご提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生を大事にししながら、入居者様の方にも出来る所は手伝って頂く事で積極的に生き生きと楽しい生活を送っている様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、報告や相談を行い情報を共有する事によって互いに誤解する事なくご本人を支えていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望等をご家族に相談を行いこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は難しい現状にあり、昭和の歌や歌謡ショー等で昔を楽しんでいる。家族との関わりが継続できるようにライン電話面会等工夫している。クリスマスツリーの前での写真撮影や七夕短冊作り等季節に応じたレクレーションを行っている。正月には密にならない日時を検討し初詣に出かけている。	これまで通りの馴染みの人・場所との継続には制約もある中で、今できることを支援されている。コロナ感染症の終息により、家族との直接の対面等ができるよう願っています。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が上手な入居者の方にも協力して頂きながら、職員が仲介等を援助しレクリエーション等を行い皆で楽しく過ごせる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院への転居や転院の際は、職員が折りみてお見舞いや面会に行くことでその関係が途切れない様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を優先した生活を送って頂ける様、いつでも相談に乗れる様な雰囲気作りに努めている。また、日々の会話やご家族様からの情報を頂きながら、困難な場合は職員で検討したりしている。	入居者との日々の会話の中から希望等を引き出し、訴えがある場合にはそれに即した対応を心がけているが、あまり申し出られていないようである。聞こえの悪い入居者には耳元の会話により聞き取りし、本人の思いに応えている。希望等の把握が困難な場合や理解力の低下による転倒防止等に家族等と話し合い、意見をプランに具体的に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居受け入れ前の面談時や入居された後にご本人やご家族にお尋ねしながら状況把握に努めている。また、面談等を介護記録に残し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様がこれまでにされてきた生活のリズムを大事にし、時には新しい試みも提案しながら最良の環境を作れる様努めている。また、気が付いた点は記録に残し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は職員間での話し合いを行っている。また、ご本人やご家族とも日頃のやり取りの中で、思いを聞かせて頂きながら、ご本人の気持ちが反映されたプランの作成に努めている。	入居時まずは新しい環境に対するプランを策定している。入居者個々の事案である排泄コントロール、歩行状態等による話し合いをプラン作りに生かし、短期目標ごとにケアプラン実施項目をチェックし、介護認定更新にはアセスメントから見直している。自分のペースでの暮らしの希望に主治医や訪問看護・管理者・ケアマネジャー等が話し合いプランを見直す等現状に即したプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画以外の内容も記録に残し、細かい発見や工夫をするのに役立っている。また申し送りや会議の中で職員間の情報共有を行い入居者の支援に役立っている様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切に、実施可能な部分に関しては実施している。また、何らかの障害により実施困難の場合はまずどうすれば実施可能かを検討し、出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等へ参加し、繋がりを深める様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は施設の連携医に限らず、個々の主治医と連携が取れる様努めている。また、症状によってはご本人、家族と相談しながら専門医への受診を行っている。	全員の入居者が協力医療機関からの訪問診療として、主治医の指示による皮膚科や精神科等の専門部門は家族の支援や職員で受診を対応する等連携している。また、日々のバイタルチェックにより不安があれば主治医や訪問看護師(週1回)に相談する体制として異常の早期発見に努め、健康や身体的な面での変化に家族へ連絡・連携により適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時のみでなく、少し気になる時等いつでも相談出来る様な関係作りに努めている。また、かかりつけ医ごとに連絡先が解りやすい様相談先電話番号等の掲示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は直ぐに入院先の医師や看護師に、日常生活動作や既往歴等の情報提供を行っている。また、入院中にもお見舞いや電話にて状況確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化においては、ご家族様や主治医とよく話し合い、助言や指示を頂きながら対応を検討している。	入居時に看取り指針のもと、入居時に医療行為が中心であればホームでの生活は難しいことを説明し同意を交わしている。入居者の状態により家族との話し合いを重ね、家族の要望があれば、ホームで出来る最大限の支援に取り組む等、主治医・訪問看護等と連携しながら重度化・看取り期を支えている。	入居者の中には100歳を超えても元気に過される姿も有る。これまでも看取り期の支援に主治医・訪問看護・家族・ホーム側がチームとして入居者の最終章を支援されている。今後も入居者・家族の希望に即した支援の継続に大いに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応として、管理者、訪問看護ステーション、ご家族様への連絡をスムーズに行える様職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い避難できる方法を全職員が身につけるように努めている。 又、自治会にも加入し、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を行う事として、火災を想定した訓練では消防署の指示により集合場所への避難訓練を行っている。各居室のドアには災害時の避難済を知らせる木札を準備し有事に備えている。施設全体でガスコンロ・備品・水・食品類は備蓄し、厨房で管理している。	今後は自然災害を想定した机上訓練や日々の安全点検への着手等により有事への備えとして頂きたい。また、街の中にある施設という立地は、近隣住民の一時避難場所として大いに期待され、施設の啓発や運営推進会議を通して検討頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけご本人様の傍らで声掛けを行い、排泄等の確認は外に漏れない様配慮している。また、職員間で気になった言葉等は注意し合う様心がけている。	排泄時等出来る限り入居者の耳もとや近くで声かけ、入室時のノックの徹底等尊厳やプライバシーに配慮し対応している。時には馴れ合いの言葉使いや気になる点もあるとして職員同士が注意喚起している。個人情報保護について、情報漏洩には特に注意を払い、同意を得て入居者の写真を掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい様、職員は目配り気配りを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的な希望にも出来るだけ対応出来る様、職員は柔軟な業務分担の振り分けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から入居者様の身だしなみには気を配っているが、誕生日等特別な日は特にご家族にも相談しながら、その方らしいおしゃれをできる様援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等、季節感を感じて頂ける様配慮している。また、入居者の方にも小さな作業でも可能な限り手伝って頂いている。	施設厨房の調理であり、ホーム職員は盛り付けや刻み食等に対応している。入居者が直接調理に関わる事は無いが、ホームでは炊飯や汁物の匂いにより食思意欲を引き出し、食後のお盆拭き等にお客様が精を出されている。月1回の美食祭りや行事食(敬老の日やおせち料理等)に趣向を凝らした食提供は、入居者の楽しみの一つとなっている。	職員が検食を行い、意見を厨房にあげる体制である。今後も、入居者の好み等が反映された食事提供に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態にあった食事量や食事の形態に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科による口腔ケア指導の実施、また、毎日の義歯洗浄、うがい等を行って口腔内清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンの把握に努め、オムツ使用を出来るだけ抑えていくようにしている。	日中はトイレでの排泄を基本に、排泄チェックにより個別のパターンを把握し、声をかけたりトイレへ誘導し、自立した入居者へもタイミングを見ながら声掛けしている。時間帯や尿量により排泄用品を使い分け、家族の負担軽減に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整、水分強化等をそれぞれにあった形で行い、訪問看護ステーションとも相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けは行うが、希望されない時は無理には実施せず、翌日等入りたい時に入って頂く様にしている。	午前中週2～3回を目安に入浴を支援している。入浴を拒否される方には「体重測定」として声をかけながらお湯に誘ったり、無理強ひせず翌日に支援している。入居者と職員との1対1の時間を楽しみ、浴室も掃除を徹底し、シャワー浴中心の場合にはかけ湯をしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や夜間の睡眠時間をふまえて静養対応を検討したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更等は確実に申し送るようにしている。また、個別のファイルに薬剤情報も整備、保管し確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感を味わうための行事を毎月計画、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で全体での外出行事等ができなかったが、今後、コロナの状況によりご家族様や地域住民にご協力を頂いて外出、外泊が出来るように支援に努めたい	入居者から外出への希望は出ないが、新年には初詣に出かけている。専門医への受診(個別)を外出の機会として捉えている。職員からは希望がない分、お客様をどこかへ連れていきたいとの声が上がっている。	デイサービスの車両を借りる等法人の協力が得られており、密にならない場所等をリサーチしながら外出の機会を検討いただきたい。また、普段の会話で外出の希望を引き出したり、家族の協力を得ながら地域資源を活用されることを期待したい。コロナ禍で出来なかった外出や楽しみごとが少しでも出来るように願っています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に職員が行い、収支表等でご家族様にご報告している。少額ではあるがご家族様了承を得て持っておられる利用者様もおられ外出時には実際にご自分で支払を出来るよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様にご了解を頂き、外からかかってきた友人の方からの電話に実際に出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前の名札の壁、ユニット間ホールには季節に応じた装飾をしている。	各ユニット毎にホーム便りや入居者の作品等時節に応じ掲示され、一日の大半を過ごすリビングで過ごされる入居者にとってはゆったりとした室内である。騒音もなく、職員は感染症対策を徹底し、室内の温度調整や換気、消毒等安全で居心地の良く過ごしてもらうよう環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでの配席には注意し、いつでもくつろいでいただける様、ソファ等を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様の愛用品等を持ち込んで頂き、その方らしい生活出来るよう努め、ご家族様にもお願いしている。	入居に際し、家族に馴染みのものの必要性を説明し、使い慣れた小物や馴染みの衣類、家具等を依頼している。家族により持ち込まれたテーブルや椅子、ソファやテレビ、身の回りの品々が配置され、居室の目印となる飾り棚が設けられている。職員は入居者が過ごされる時間帯に室内の換気を行い、共用空間同様感染予防を施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時には転倒に注意し、廊下には障害物を置かない様心がけている。また、少しの言葉があると理解出来るような場面(トイレの場所など)では掲示を行い入居者様が混乱されない様努めている。		